



1 学生の学び企業活力へ



筑波ハム 齋木一素社長

福永一哉 コーディネータ

宮田貞夫 講師

提案発表をした学生との集合写真

地域経済論の授業で、学生による発表会が実施されました。これは、企業の活力向上に関し、学生が調査研究したものです。宮田貞夫講師(中小企業診断士)が授業を担当し、企業経営者に授業への参加も依頼しています。今回『筑波ハム』の齋木一素社長と『茨城県よろず支援拠点』の福永一哉コーディネーターに参加いただきました。学生は、6つのテーマ(右枠)について、企業情報を集めITの観点から検討し提案事項を発表していました。齋木社長は「消費者として、若い世代としての視点を活かしたユニークな発表があり、早速取り入れてみたい」と話されていました。

<発表テーマ>

- 1 新規客層向け商品とその消費スタイル
- 2 既存商品の改良の方向性と具体的方法
- 3 既存商品の広報戦略
- 4 新規客層の客開拓方法
- 5 新種のイベント・キャンペーンと実施方法
- 6 連携先と連携の内容



学生の発表風景



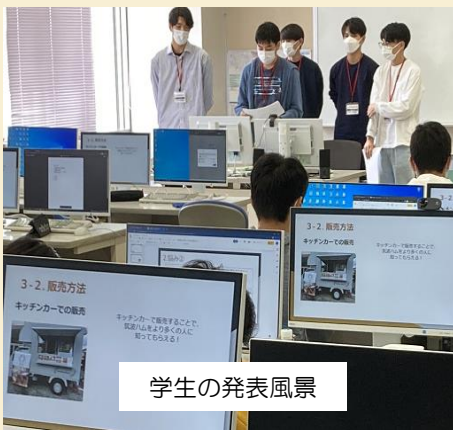
学生の発表風景



福永コーディネータと齋木社長



宮田講師の説明を聞く学生



学生の発表風景

2 応援メッセージ!

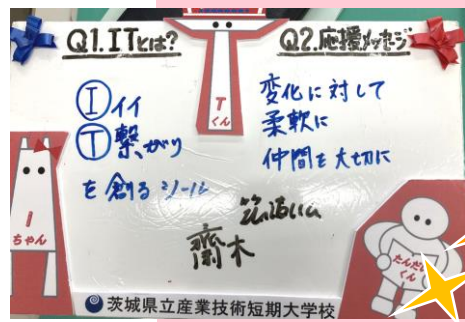
筑波ハム 有限会社筑波ハム



齋木一素 社長



『筑波ハム』(昭和58年設立)は、四季折々の彩りを見せる紫峰筑波山と、その姿を仰ぎ見る清らかな大気と緑の中で「日本の最高峰のハムづくり」を目指しています。来校された齋木一素社長は「学生の皆さんから、新たな視点と着想を頂きました。これからの活躍が楽しみです」と話されていました。



4 新聞を読む学生

本校では、「専門力」に加え「社会人基礎力」向上のため、新聞スクラップを実施しています。IT社会を支える人材育成の一環となるものです。ここでは実践した学生の声をご紹介します。

●大津 光さん(水戸商高卒)

私は今まで新聞に興味がなく、読んだ試しがありませんでした。

しかし、新聞スクラップで、新聞を読んでからは、政治や今起きている出来事への知見が広がりました。これからはより新聞ニュースを見ていく必要があると認識することができた。加えて、今まで以上に文章を短くまとめ、相手に分かりやすく伝える力が身に付いたように感じた。これからも社会により関心を持ち、情報収集を行いたい。



●小松夏希さん(水戸桜ノ牧高常北校卒)

新聞スクラップを通して、文章を読む力や書く力が付きました。

要約を行うことで、記事の中で大事な部分はどこののか、伝えたいことはどんなことなのかなど、読んで、考えて、まとめるという力を付けることができました。また、感想では自分の意見や考えを伝える力が付いたと思います。相手に分かりやすく自分を表現しようと考え、キーワードを厳選して、100文字の文章を書くことを意識して取り組みました。



●作山翔梧さん(多賀高卒)

今まで私は新聞を読むことも要約することもあまりしてこなかったため、この新聞スクラップの取り組みは新鮮な体験でした。

新聞を読むことにより、様々な社会情勢などの情報を知ることができ、スクラップすることで文章の重要な箇所や伝えたいところを早く見つけ、短くまとめる要約する力も身に付けることができ良かったです。これからは新聞を読んだり、ニュースを見るなどして社会に対して関心を持って生活していこうと思います。

